

- 1 会議名 厚生・文教常任委員会協議会
- 2 日時 令和5年11月2日(木)
午前9時58分から午前11時15分まで
- 3 場所 正・副議長応接室
- 4 出席委員 (委員長) 井上真砂美、(副委員長) 伊藤隆信
(委員) 片岡健一郎、鬼頭博和、堀江珠恵、日比野走、榭谷規子
欠席委員 なし

5 事務局出席 議会事務局統括主査 寺澤頭

6 委員長挨拶

7 協議事項

(1) 政策提言について

井上委員長：代表質問通告書案について気になることを言ってほしい。

榭谷委員：「確認」という言い回しには井上委員長独特なので修正したほうがよい。1(2)「について知る」も「について問う」ではないか。また、対象人数の質問に関連して、高校一年生から始めてはどうかという質問を入れてはどうか。

片岡委員：対象人数は把握できていないと言われる可能性が高い。現状把握のため人数調査の必要性を問う質問にしてはいかがか。

井上委員長：保護者からの申請方式にしてはどうか。児童手当も申請方式ではないのか。

堀江委員：児童手当は申請方式ではなくなった。しかし対象から外れるとすぐ第2子扱いで通知が来る。あれはどのように把握しているのか。この件にも生かせないかと思った。

片岡委員：対象人数と必要予算額はセットのようなものなので、人数が把握できないと予算も分からないという答弁になりかねない。まずは人数を質問し、把握できないということを聞き出し、人数の把握をしてはどうかという流れにしてはどうか。委員長が言った方式については次のステップかと思う。まずは実施してほしいということを伝えるだけでもよいかと思う。

鬼頭委員：上の子が高校生までぐらいなら当局は把握できるのではないか。

片岡委員：なぜ把握できないのか疑問。市民窓口課で把握できないのか。

井上委員長：住民票でも戸籍でも把握が難しいとのこと。最終的には保健センターの母子手帳交付時の申請数でカウントしてもらった。

片岡委員：第3子完全無償化を実施している他の自治体はあるのか。どのようにやっているのか。

堀江委員：小牧市で実施している。

井上委員長：申請方式にすればよい。

片岡委員：虚偽の申請が起こらないか。

井上委員長：可能性はある。義務教育内とした経緯についても質問する。過去の資料を見ると、少子化対策だった模様。

梶谷委員：当時の石黒市長が行った。

片岡委員：少子化対策という経緯なのであれば義務教育内に限る必要はないということで次の質問につなげられる。市長へある程度打診したのか。反応はどうか。

井上委員長：部長へ打診した。部長からは、承るという程度の反応だった。次の育休退園に関する質問についてはどうか。

片岡委員：待機児童が出る懸念については、もともと就園していたはずなので、キャパシティはあるのでは。

井上委員長：その子の代わりに入れない子がいたかもしれないという話が出ても出る。

梶谷委員：隠れ待機児童がいる。

井上委員長：当局によると、退園したことで親に負担がかかり虐待などがある場合は就園継続が認められるとのこと。

鬼頭委員：よっぽどの場合。

片岡委員：それは当然手を差し伸べるべき事案だが、国の方で、そういった場合でなくても預かる流れがある。

井上委員長：育児休業の考え方も、生まれた子の育児休業であるのに、現状は上の子もみないといけない。育児休業は仕事をしていない状態という認識になっている。

片岡委員：0歳児をみるというのは仕事に匹敵するぐらい大変なことだということをお訴えすべき。0歳と2歳を同時にみるとどれほど大変かという話を織り交ぜたい。

梶谷委員：かつては、3歳までは母親が見るべきという3歳児神話があったが、それがなくなり、働く女性も増え、0歳から2歳の保育園申込がとても増えた。公立保育園がすぐ増設できないので認定こども園もできた。0歳から2歳の受入れが足りていない。

井上委員長：市長からよい返答を求めるようにしていきたい。

片岡委員：予算もかかる話だが、市長も問題意識はあるはず。

梶谷委員：サポーターとの意見交換会に来た男性も子どもを連れてきており、妻が倒れそうだったので育児休業を取得したと言っていた。男性が育児休業を取りやすくしていかないとけない。

片岡委員：中小企業ではまだ難しいところもあるが、市がサポートしていければ。

井上委員長：祖父母が遠方に住んでいたり、まだ働いていたりして頼れない場合もある。

榊谷委員：本来は男性がもっと育児休業を取りやすい社会になればいいが、実際にはまだ難しいというのもある。

片岡委員：そういった文言も入れたほうがよい。

井上委員長：視察後のまとめで色々な感想があった。座間市は庁舎内の表示が大きな文字で見やすかった。大和市の不登校特例校分教室は、壁が全てホワイトボードなのが特徴的だった。鎌ヶ谷市の放課後児童健全育成事業については、民間委託で、メリットとデメリットが分かった。野田市の子ども未来教室では、子どもたちの状況について正直に話していただいた。Google for Education パートナー自治体プログラムについては、すぐには難しいかもしれない。岩倉市でもタブレット学習は活用されているが。

堀江委員：教科により取り入れやすさも異なり、教員もタブレット活用について模索中のようだ。

鬼頭委員：Google が関わっているだけあってとても手厚いサービスの印象。

堀江委員：近隣では犬山市が使用している。

井上委員長：組織機構改革もあるので、課や窓口の名称が分かりやすくするのはよいと思う。

片岡委員：何に関することを担当する課なのか表示されていたところも分かりやすくよかった。課名と同じぐらいの大ききで書いてあった。写真も撮ってきたので、見せながら話すのもよいと思う。深いテーマではないが、すぐに取り組みやすい内容。最初にそういった提案から入るとよいかもしれない。

井上委員長：そういったことも提案する。統合保育園にホワイトボードの部屋を作るのはどうか。

堀江委員：ペンを舐めたりしてまだ危ないかもしれない。行動が読めない年齢。

井上委員長：学校の調理室は調理の時間しか使用していない。

日比野委員：不登校用の教室にするのか。

井上委員長：夏休み等に利用するなど。

堀江委員：学校の施設は使用させてもらえるのか。

井上委員長：老人会等では事前予約すれば調理室は使わせてもらっている。放課後児童クラブは、言い方は悪いが、夏休み中は部屋の中に閉じ込められるようになってしまう。猛暑で外遊びも難しい状況もあった。弁当の管理の問題もある。保護者は苦労しないのか。

榊谷委員：腐りやすい時期で苦心する。岩倉も子ども食堂のようなものがもっと必要だと思う。

堀江委員：ボランティアを募りながらでないといけないと思うが、調理室を貸して

もらえるのならば、長期休業の有効利用としてよいと思う。鎌ヶ谷市の登下校出欠管理システムもよいと思った。働いている保護者の安心につながる。

梶谷委員：逆に、個人情報関係で嫌がる保護者もいる。

井上委員長：学校の出欠席は現在どのようにしているのか。

堀江委員：アプリで連絡している。

井上委員長：見守りの人たちは児童が休むのかどうか分からず困ると言っていた。アプリは無料なのか。

堀江委員：保護者は無料だが、学校が支払っている。

片岡委員：先生たちが電話を受けるよりは確実。

鬼頭委員：それを放課後児童クラブでも使用し、逆に親が連絡を受け取れるようにすればよい。

堀江委員：システムを工夫すればできるはず。

井上委員長：この提案も入れるか。

片岡委員：かなり内容がバラバラだがどのようにまとめるか。新しい項目ができてしまうと思うが。

鬼頭委員：「子育て支援について」という大項目でもいいかもしれない。

片岡委員：庁内表示についても、子育て支援に絡めて一例として入れればその項目の中に入れられる。

井上委員長：もう一度よく考える。

片岡委員：質問原稿についても事前に委員全員に伝えてもらいたい。

井上委員長：11月20日までに作成する。

片岡委員：当局へも最終的にある程度打診をお願いします。

鬼頭委員：箇条書きでもよいと思う。

(2) その他

鬼頭委員：不登校に関しては自分が一般質問で行う。岡崎市へフリースクールの視察も行ってきた。

片岡委員：他に視察内容で一般質問する人はいるのか。

堀江委員：Google for Education パートナー自治体プログラムを教員の業務改善につなげていきたいと考えている。

日比野委員：野田市の行政視察に関連した一般質問を行いたいと考えている。

梶谷委員：座間市の行政視察に関連した一般質問を行いたいが、20日に委員会代表質問の内容を聞いてから考える。

伊藤委員：放課後児童クラブについては誰がやるのか。

片岡委員：この中の一部の内容を代表質問に入れる。

伊藤委員：片岡委員やってはどうか。

片岡委員：考えてみる。

伊藤委員：視察に行つて勉強したことは多く生かしたほうがいい。

事務局：公費がかかった視察なので、それは大切なこと。

井上委員長：委員会代表質問についても、よく考えて20日に提出する。

片岡委員：我々も今回の行政視察に関連した一般質問について次回までに考えてくる。

井上委員長：次回の協議会は11月20日の議会基本条例推進協議会后とする。

8 その他

なし